

国際化学肥料ニュース（2026年2月）

肥料業界の2026年2月動態

- * インドと世界の大手加里会社との間に行っている2026年塩化加里輸入基本契約は順調に進み、2月中に締結する見通しとなった。大手加里会社はCFR価格360ドル/トン进行提案したが、インド側のIPL社は拒否して、2025年基本契約の349ドル/トンと同じ価格か最大2ドル上がることを要求している。

インドの2025年塩化加里輸入量が7%減の290万トン、国内販売量が12%増の230万トンであったが、十分な在庫があり、契約を急ぐ必要のない立場である。
- * 中国りん安の輸出が政府の規制によりほとんど停止されたことを受け、中国以外のりん安を求める動きが活発になった。サウジアラビアのMaaden社は2月にFOB665～670ドル/トンでヨーロッパに4万トンDAP、CFR668～669ドル/トンでインドに6万トンDAP、Maaden社とSabic社はCFR695～700ドル/トンで南米に7.5万トンDAPを販売した。また、モロッコのOCP社はCFR720ドル/トンでブラジルに数件のMAPを販売し、CFR750ドル/トンでタイにDAPを販売した。ほかにロシアはブラジルを除く南米向けに2.5万トンMAPと1.5万トンDAPを販売した。
- * 中東産油国は石油精製の副産物硫黄の価格をさらに引き上げた。アブダビの国営Adnoc社は2月のインド亜大陸向けの硫黄公式販売価格（OSP）を530ドル/トンに設定することを発表した。この価格は1月の520ドル/トンより10ドル上げた。

また、カタールの国営Qatar Energy Marketing社は2月のカタール硫黄価格（QSP）を1月の517ドル/トンから3ドル上げて、520ドル/トンにした。

クウェートの国営硫黄生産会社KPCも、2月のクウェート硫黄価格（KSP）を520ドル/トンに設定し、1月のKSPより4ドル上げた。
- * ブラジル税関の速報によれば、2025年ブラジルの塩化加里輸入量1370万トン、2024年の1410万トンより3%減少したが、依然世界1位の塩化加里輸入国である。
- * 2月7日、インドRCF社は新の尿素国際入札を発表した。2月18日締切りと開札、予定購入数量は東海岸70万トン、西海岸80万トンの計150万トン、3月31日まで船積みという条件である。これは2026年インド初の尿素国際入札である。

* 2月第1週（2～8日）の尿素国際相場はインドの新しい尿素国際入札への期待とアメリカの強い需要を受け、大幅に上昇した。東半球では、カタール **QatarEnergy** 社は9日に締め切った尿素販売入札に3月納品の大粒尿素に対して **FOB480** ドル/トンの入札を受けた。オマーンでは5月納品の尿素には **FOB470** ドル/トンでの商談が決めた模様。また、東南アジア産大粒尿素の **FOB** 価格が **490** ドル/トンに上がった。

西半球では、エジプト産大粒尿素の **FOB** 価格が **500** ドルを突破して、**505** ドル/トンになった。ナイジェリア **Dangote** 社は **FOB455** ドル/トンで3万トン大粒尿素を販売した。アメリカの **FOBNola** 価格が **450** ドル/ショートトンになり、大粒尿素の **CFR** ブラジルも **470～475** ドル/トンに上昇した。

* バングラデシュの国営 **BCIC** 社は2月9日に締め切った3万トン標準りん鉱石（**32% P2O5**）の入札にモロッコ産りん鉱石の **FOB160** ドル、船賃 **63.4** ドル/トン、ヨルダン産りん鉱石の **FOB222.5** ドル、船賃 **35** ドル/トンの応札を受け、モロッコ産りん鉱石（**CFR223.9** ドル/トン）を受けた模様。なお、昨年第4四半期のモロッコ産りん鉱石の **FOB** 価格中間値が **177** ドル/トン、ヨルダン産りん鉱石の **FOB** 価格が **159～182** ドル/トンであった。

* インドネシア政府は2026年最初の尿素輸出許可状を発行した。140万トン尿素輸出許可状は全量国営 **Pupuk** 社の子会社に配分される。**Pupuk** 社の子会社はすでに販売入札を行うことができる状態になっているが、**Kaltim** 社は最先に販売入札を行うと予測される。最新の統計データによれば、インドネシアは2024年に150万トン、2025年1～11月に計152万トン尿素を輸出した。

* サウジアラビアの **Maaden** 社はインドに **FOB 680～685** ドル/トンで **5.5～6** 万トン **DAP** を販売する。2月第2週に積込、週末にインド東海岸に到着する予定である。この取引は2025年7月サウジアラビアとインドとの間で締結された長期オフテイク契約のもとで行うものである。

* カナダの **Nutrien** 社はインドのりん酸メーカー兼商社 **CIL** 社との間に2026年第1四半期のりん酸契約を **P2O5** 換算で30日間のクレジットで **CFR1,290** ドル/トンにすることを合意した。これは、**CIL** 社がヨルダンの **JPMC** 社と間に合意した2025年第4四半期の価格と同じである。

- * サウジアラビアの **Maaden** 社はアフリカのタンザニアに CFR 価格 715 ドル／トンで 3.5～4 万トン DAP を販売し、3 月初旬に出荷予定である。12 月に東アフリカへの CFR 価格 700～707 ドル／トンより上がった。
- * EU はウクライナ侵略によりロシアへの制裁強化にもかかわらず、ロシアから大量のリン酸製品を輸入し続けていることがスウェーデンの環境会社 **Ragn-Sells** の報告により判明された。2025 年 EU はロシアから 8 億 9000 万ユーロ相当のりん酸塩を輸入し、EU の総リン酸塩輸入金額の 21% を占めている。
リン酸塩は肥料や動物飼料の不可欠な栄養素である。しかし、フィンランドにある EU 唯一の稼働中のリン鉱山の生産量は、ヨーロッパの農業需要の 10% 未満しか供給されていない。不足分のほとんどはロシアとモロッコからの輸入に依存している。
- * 2 月 18 日に締め切ったインド **RCF** 社の尿素国際入札に 20 社から応札され、応札数量が計 307 万トン超である。最低応札価格は CFR 東海岸 512 ドル／トン、CFR 西海岸 508 ドル／トンである。1 月 5 日に締め切りと開札された前回の尿素国際入札に比べて、最低応札価格が 83.2～85.2 ドル高くなった。なお、最低価格の応札数量は 10.5 万トンしかない。
- * 2 月第 2 週（9～15 日）の尿素国際相場は、インド **RCF** 社の尿素国際入札および旧正月（春節）休暇の影響を受け、上昇し続けている。東半球では、東南アジア地域は春節の直前で動きが低迷しているが、中東産大粒尿素的の FOB 価格が 485～489 ドル／トンに上がり尿素、イラン **Pardis** 社は FOB442 ドル／トンで 3 万トン大粒尿素的を販売した。なお、**Pardis** 社は尿素プラントの稼働率を 67% に上げたが、ほかのイラン工場は依然稼働停止の状態である。
西半球では、エジプト産大粒尿素的の FOB 価格が 490 ドル／トン台に維持して、ナイジェリア **Dangote** 社が FOB470 ドル／トンで 3 万トン大粒尿素的を販売した。大粒尿素的の CFR ブラジル価格が 470～485 ドル／トンに上昇した。ただし、アメリカの需要が落ちて、小粒尿素的の FOB Nola 価格が前週の 458～465 ドル／トンから 450 ドル／トンに下落した。
- * インド政府の最新統計データによれば、NPK および NP 化成肥料の生産増と販売減により、2 月 1 日現在の在庫量が 500 万トンを超え、1 ヶ月で約 37.5 万増加した。2026 年 1 月のインド国内 NPK および NP 化成肥料生産量が 2% 増の 114 万トン、輸入量が 16% 減の 19.5 万トン、販売量が 14% 減の 96.5 万トンである。2025/26 肥料年度最初 10 か月（2025 年 4 月～2026 年 1 月）の NPK および NP 化成肥料生産量が 12% 増の

1041 万トン、輸入量がほぼ倍増の 349 万トンに達したが、販売量が 1%減の 1271 万トンである。

また、1月のインド国内 DAP 生産量が 34.2 万トンで安定しているが、輸入量が 7 万トンしかなく、販売量が 53.5 万トンに達し、1月末の DAP 国内在庫量が 190 万トン以下に減少した。

* サウジアラビアの Maaden 社は FOB715～720 ドル/トンで南米アルゼンチンに 4.5～5 万トン DAP を販売して、3月初旬に積み込み出荷する。販売価格が前月の FOB667～705 ドル/トンより大幅に上がった。

* エジプトの肥料メーカー NCIC 社は 2 月 19 日に締め切った 3 月出荷の肥料販売入札結果を発表した。

FOB750 ドル/トンで DAP2 万トンをヨーロッパ向けに販売した。前回 1 月に行った 6 万トン DAP 入札の FOB 価格 725～745 ドル/トンであった。

FOB560 ドル/トンで 2.5 万トン重過リン酸石灰を販売した。前回 1 月に行った 1.8 万トン重過リン酸石灰の FOB 価格 547～550 ドル/トンであった。

FOB492 ドル/トンで尿素 2 万トンを販売した。前回 1 月に行った 1.2 万トン尿素的 FOB 価格 475 ドル/トンであった。

NCIC 社が行った前回の入札は 2 月出荷の肥料で、1 月 25 日に締め切られた。

* 2 月 24 日、インドネシアの肥料メーカー Pupuk 社の尿素子会社 Pupuk Kalimantan Timur 社は 3 月出荷の 4.5 万トン大粒尿素的販売入札を発表した。2 月 27 日締切り。

同日にブルネイの肥料会社 BFI 社も 3 月出荷の 6000 トン大粒尿素的 2 件と 3 万トン大粒尿素的 1 件計 4.2 万トンの販売入札を発表した。

* 2 月 18 日締切りと開札されたインド RCF 社の尿素的国際入札は、CFR 西海岸 508 ドル/トンで 84.46 万トン、CFR 東海岸 512 ドル/トンの価格で 46.32 万トンの計 131 万トン尿素的を確保した模様。1 月 5 日に締め切りと開札された前回の尿素的国際入札に比べて、契約価格が 83.2～85.2 ドル高くなった。

* インドネシアのりん酸メーカー Indorama 社はインドのりん酸塩輸入業者 IFFCO 社との間に 2026 年第 1 四半期のりん酸輸入価格 (P2O5 換算) を CFR1,290 ドル/トンで契約したことを発表した。この価格は 2 月 12 日にカナダの Nutrien 社とインドのりん酸塩輸入業者 Coromandel International 社との間に契約された 2026 年第 1 四半期のりん酸輸入価格と同じである。

大手各社の営業業績

- * ノルウェーの Yara 社は 2025 年第 4 四半期と年間の営業業績を発表した。2025 年第 4 半期はアンモニア生産量 174.1 万トン、尿素生産量 120.9 万トン、硝酸塩 150.4 万トン、NPK 化成肥料 158.4 万トン、すべて前年同期より減少しが、年間を通じて、増産増収となる。2025 年の年間アンモニア生産量が 1.5%減の 707.3 万トン、尿素生産量が 3.3%増の 474.4 万トン、硝酸塩生産量が 1.5%増の 603.1 万トン、NPK 化成肥料生産量が 1.1%増の 641.6 万トン、尿素、硝酸塩、NPK 化成肥料、硝酸カルシウム、UAN（尿素硝安液肥）、加里、りん酸塩製品を含むすべての肥料販売量が 4.1%増の 2380 万トンに達した。2025 年の総売上高が 12.8%増の 157 億 1500 万ドル、EBITDA が 45.8%増の 27 億 5400 万ドル、純利益 9146.7%増の 13 億 7200 万ドルである。
- * カザフスタンのりん酸塩メーカー Kazphosphate 社は 2025 年主要製品の生産量が大幅に増加した。その業績報告書によれば、2025 年の MAP 生産量が前年より 58%増の 75 万トン、飼料添加剤のりん酸三カルシウムの生産量が前年より 41%増の 2.4 万トン、過リン酸石灰などを含めて、2025 年りん酸肥料生産量が過去最高の 140 万トンに達した。また、生産基盤の発展と生産品目の多様化を目的として、Taraz に年間 80 万トンの硫酸工場、Zhanatas に年間 100 万トンの MAP 工場の新設が進んでいる。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * カナダの Karnalyte Resources 社はサスカチュワン州 Wynyard にある Wynyard 加里プロジェクトのフィージビリティ・スタディ最新版を提出し、70 年の鉱山寿命と高い経済性を確認したと発表した。また、最大株主のインド GSFC 社と戦略的オフテイク契約を締結して、インドおよび北米における加里需要の増加に対応する。計画されている Wynyard 加里プロジェクトの第 1 フェーズでは年間生産能力 67.5 万トン、第 2 フェーズと第 3 フェーズではそれぞれ年間生産能力 75 万トン、完全稼働になれば、年間生産能力 217.5 万トンとなる。ただし、今後の開発は、加里価格の変動と資金調達により変動することもあるという。

その他

- * モロッコの主要港での悪天気により、OCP 社のリン酸塩生産と輸出は妨げられている。Safi 港での硫黄荷揚げが困難となり、リン酸の生産が妨害されている。Jorf Lasfar 港からのりん酸肥料輸出も悪天候による遅延が続いている。Jorf Lasfar 港はモロッコのリン酸肥料輸出の主要港で、悪天候のため 1 月 20 日以降船舶の入港と出港が休止している。港湾当局は出荷再開の予定日を 2 月 7 日にすることを発表した。ほかに OCP 社

は Safi 港での飼料用リン酸塩の出荷に混乱があり、Casablanca 港での混雑が飼料用リン酸塩および可溶性 MAP コンテナの輸出に支障が出ていることを発表した。

- * ブラジルの肥料会社 Massari Fertil 社と Morro Verde 社は 1 月 30 日に事業の合併を発表した。合併は、企業間の株式交換を通じて行われ、Massari Fertil 社は新社の支配権を保持する。

Massari Fertil 社はサンパウロ州 Salto de Pirapora 市に本社を置き、年間 120 万トン以上の肥料および鉱物添加剤の生産能力を有している。Morro Verde 社はミナスジェライス州 Pratópolis 市に本社を置き、鉱物の探査／開発と流通を主業としている。合併後の新会社の生産能力は NPK 肥料の年間 300 万トンで、3 年後には年間 500 万トンに拡大する可能性がある。

- * 日本の三菱商事はロンドンに本社を置く世界有数の資源メジャー Anglo American 社と契約を結び、イギリスのノースヨークシャー郡に開発中の Wood smith ポリハライトプロジェクトに投資する。契約によれば、まず、三菱商事は Wood smith プロジェクトに非公開の初期投資を注入し、2028 年に予定されている最終投資決定に伴い、プロジェクトの株式取得の用意がある。それまでは、Anglo American 社はプロジェクトに年間約 3 億ドルを投資し続ける。

ポリハライトは $K_2Ca_2Mg(SO_4)_4 \cdot 2H_2O$ という天然加里鉱物で、硫黄・加里・苦土・石灰の 4 成分を含み、そのまま粉砕して肥料として施用できる。Anglo American 社は 2020 年初頭にイギリスの Sirius Minerals 社を傘下に収め、Wood smith プロジェクトを取得した。建設中の Wood smith 鉱山は、年間最大 1300 万トンポリハライトを採掘すると計画され、2032 年から稼働し始まると見込まれている。

- * アメリカの連邦最高裁判所が 2 月 21 日に昨年導入した関税措置の大部分を無効と判断したことを受けて、トランプ大統領は同日に発表、2 月 24 日から発効された新 10% 関税について、尿素、硝安、UAN（尿素硝安液肥）、硫安、重過リン酸石灰、DAP、MAP、塩化加里、硫酸加里がその関税の対象外になることが判明された。ホワイトハウスのファクトシートによれば、新関税の根拠値なる 1974 年通商法第 122 条には「米国内で栽培、採掘、またはその他の方法で生産できない天然資源および肥料」が関税を免除するという条文があるので、ほとんどの化学肥料が輸入関税の対象外となる。ただし、その通商法の付属書 II では、硫黄、硫酸、アンモニアは USMCA（アメリカ、メキシコ及びカナダの自由貿易協定）を通じて輸入されない限り関税が免除されないという。

トランプ大統領が発表した新 10%の関税政策に対するアメリカ肥料業界の反応は控えめである。ほとんどの輸入業者と販売業者は、元の IEEPA 関税からの化学肥料輸入関税免除制度が引き継がれると予想している。

* イギリスの **Kore Potash** 社はロシアの **MGM** 社から開発中の **Kola** 加里プロジェクトおよび **Dougou** 加里拡張プロジェクトの残り持分を条件付き取得する権利を入手する。**Kore Potash** 社はまず、**MGM** 社に 100 万ドルの現金で 0.46%の持ち分を購入して、さらに 12 か月以内に残りの 2.54%持ち分を取得する権利を行使できる内容である。**Kore Potash** 社はすでに **Kola** 加里プロジェクトおよび **Dougou** 加里拡張プロジェクトの 97%を所有しているが、残りの持ち分を入手すれば、100%単独所有することになる。

Kola 加里プロジェクトはアフリカのコンゴ共和国 **Sintoukola** 盆地にあり、面積 12km x 8km の範囲に地下 180~300m に平均厚さ 4m の加里岩塩（シルビナイト）層があり、平均 KCl 品位 36%と 31%である。2018 年に開発が許可され、2020 年から開発が始まった。完成すれば、年間塩化加里 220 万トンを生産するという。